

携帯用会話補助装置で話す仲間たち

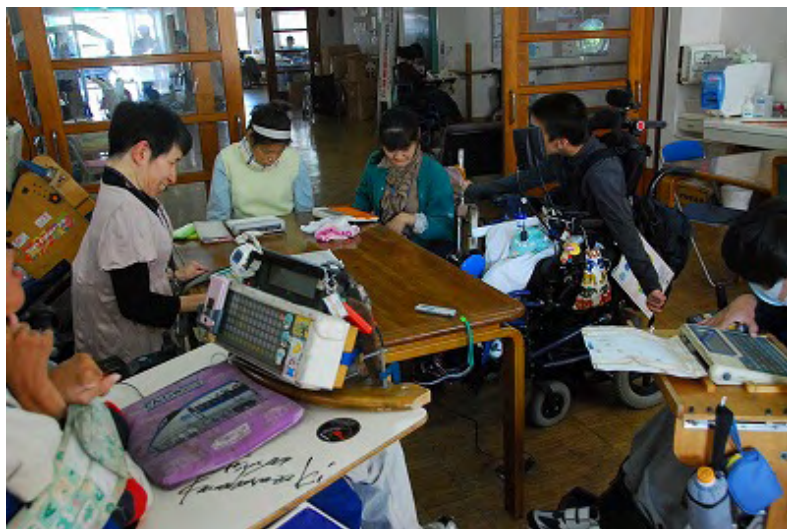
トーキングエイダース

発話障害があっても

思いを言葉で伝えたい

取材の趣旨説明の後、リーダーの野口さん「ミンナ ワカリマシタカ?」の問いかけに、「ハイ」「はい」「ハイ」と機械音の声が続く。

メンバーの皆さんにトーキングエイド(携帯用会話補助装置)の使い方と、機能改善等の要望、エイダースとして訴えたいことをインタビューしました。



月2回、金曜午後、サマリアハウスで活動

黙々と自己紹介が始まった

自己紹介をお願いしたところ、ピッピッと機械音だけが鳴り響き、打ち込みが始まりました。最初に野口さんの自己紹介。

「野口富子です。」

「つかいはじめて23年です。」



代表の野口富子さん 機種=トーキングエイド(タムラ製)

次の人が話すまでに1分。7名のメンバーに一通り発言してもらうまでに10分以上かかりました。想像していたよりも時間がかかる印象です。皆さんに併せて使用年数を尋ねました。

野口富子さん 23年 打鍵式

渡辺全孝さん 22年 スキャン式(頬SW)

服部美香さん 21年 打鍵式

加藤三千代さん 19年 打鍵式

吉村耕二さん 19年 打鍵式

若松泰宏さん 13年 スキャン式(顎SW)

白井孝幸さん 半年 スキャン式(膝SW)

19歳の白井さんは10月に新しくメンバーになったばかりだそうです。

時々文字入力音とは別に「ピピピ」という連続音や「はい」という声が聞かれ、呼ばれたような気がするので、思い切って聞いてみました。

編集部:「ピピピ」と鳴ったときに呼ばれたと考えたらよいのでしょうか。「はい」の声に反応したらよいのかな。

野口:そうですね。「はい」と呼ばれてから来てもらった方がよいと思います。

実はこの時、「そうですね」が前置きの言葉と気付かず、「そうですね、はい」と呼ばれてから来てほしいと受け取っていました。イントネーションと間の受け取り方が、難しいっ！

こんなふうにごこないインタビューが始まりました。野口さんは打ち込みが早く、仲間の発言を補足して、いろいろ教えてくださいます。

インタビューが始まってから気付いたのですが、いろいろなタイプの会話補助装置があります。機種や形状もさまざまですが、キーボードを打鍵する人、スキャンする文字盤を頬や膝のスイッチを押して文字を入力する人、ディスプレイいっぱ

いに漢字を並べて文字を選択している人、みなさん自分にあったやり方を選択しています。すべての機種が漢字対応ではなく、漢字対応の機種でも変換機能はないとのこと。まるで昔の和文タイプで文字を拾う感覚で、なおかつ漢字が表示されるディスプレイと漢字を選ぶキーボードの刻印(ひらがな)が異なり、入力は難しそうでした。それでも野口さんはすいすい入力するので驚きです。



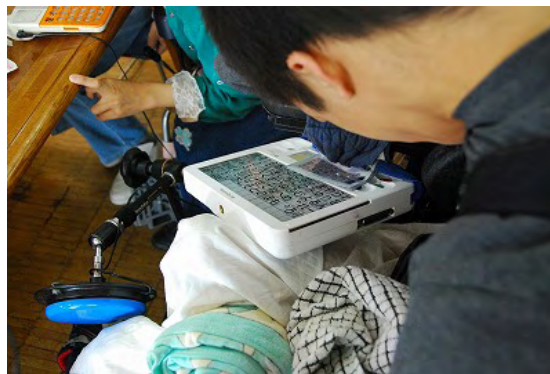
「オートスキャン」は、キーを押すことなくスイッチひとつで簡単に操作できる入力機器です。文字が順番に点灯していき、希望の文字が点灯したときにスイッチを ON することにより、その文字が入力されます。スイッチは、僅かな動きで作動する「触覚センサー」など、使用者の状態に選択することが可能。

新しい機種では漢字変換機能のものがあるらしいが、「重たいから」と敬遠されているようです。ケータイでもあんな小さな機械の中で賢い文字入力ができるのに、会話補助装置では進化していないらしい。ケータイと会話補助装置のどちらが早く入力できるか聞いてみました。

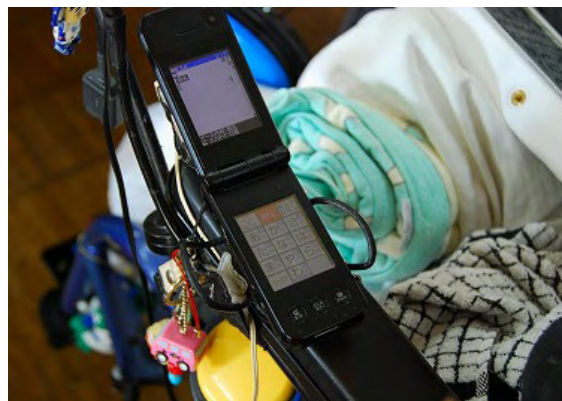
加藤: 早く打てるのはトーキングエイドだけど、早く伝わるのはケータイかな。

ケータイの場合は用件(文章)を予め登録しておいて、状況ごとに必要な用件を呼び出して相手に見せることで、たくさんの情報を早く伝えることができるそうです。加藤さんと白井さんがケータイ用アプリ「ハートチャットi」を併用しています。白井さんは膝スイッチを差し替えて、ケータイ入力にも使っているそうです。

加藤: ボタン式(キーボード打鍵)の人は会話補助装置の方が早く、スキャン式の人はケータイの方が効率よく入力できます。



白井孝幸さん=レッツ・チャット(スキャン式)+膝SW
エイダーズの中で最も若い19歳はケータイも手放せない



ケータイ+ケータイアプリ「ハートチャットi」を併用し
状況ごとに登録してある用件を相手に見せることで伝える

トーキングエイダーズの歩み

エイダーズが誕生したきっかけは、2001年、彼らが通所するサマリアハウス・デイセンターに、ある療護施設からかかってきた「歯医者に行きたいのでトーキングエイドを貸して欲しい」という1本の電話からでした。入所施設の言語障害者には日常生活用具であるトーキングエイドが給付されません。日常生活用具は在宅生活の人へ給付されるものという制度上の理屈です。それを聞いた仲間たちが怒りました。「おかしいじゃん」「施設の言語障害の人はどうすればよいの？」等々。当時デイセンターにはトーキングエイドを使用している仲間が7~8人おり、彼らの思いが結集して発足しました。

現在エイダーズは、月に2回、金曜日の午後には話し合いを開き、様々なイベントの企画や行政への働きかけを行っています。トーキングエイドの機能の理想像を話し合い、盛り上がる時もあるそうです。

2003年には施設入居者に対する日常生活用具

給付の制限の撤廃を求める要望書を厚生労働省に提出し、2004年には2050人から集めた署名とともに再び厚生労働省に要望書を提出しました。また、サマリアハウスで合宿を行ったり、名古屋市内のデイサービスを回り、仲間づくりに励んでいるそうです。

2005年は千葉工業大学から「脳性麻痺の方やALSの方など多くの発話障害をもった方々が、どこでもスムーズにコミュニケーションがとれるような携帯型意思伝達装置を開発していきたい」と機器開発の協力依頼があり、エイダースの励みにもなったそうです。研究機関やメーカーとも連携し、コミュニケーション機器をより使いやすくしていきたいというのがエイダースの望みです。

2006年には、地域との交流行事である「わだちまつり」で、トーキングエイドを使ったジャンケン大会を初の試みとして行い、一般のお客さんに実際に触れてもらいました。

2007年は、鎌倉の市議会議員千一氏をお招きして懇親会。第22回八工学カンファレンス名古屋大会にて発表。その年の暮れから翌年7月までハートチャットモバイル(現ハートチャットi)のモニターに協力しました。

2008年は、以前出掛けて行ったデイサービスに再度出向き、2ヶ月後、そのデイサービスからトーキングエイドを使用している人たちが来所し交流を深めました。

2009年も新聞に掲載されたり、看護学校への講演のほか、第24回八工学カンファレンス所沢大会で発表しました。

携帯用会話補助装置に望むこと

野口:初代トーキングエイドから比べると、いろいろ機能は進化していますが、進化し過ぎてかえって使いにくいところがあります。トーキングエイドITや、トーキングエイドライト等は操作をする度に、いちいち音声が出ます(打鍵したキーに対応した文字音が出るほかに操作機能の音も出る)。これは電話をかける時などにすごく不便で

す。一方で操作機能の音声が出ないと困るという人もみえるので、クリック音と文字音1・文字音2という様に3種類から選べるにしたいと思います(現在クリック音と文字音の2種類しかないのです)。

私の場合トーキングエイドの漢字モードを使って、こんな使い方もしています。

延長コード えんちょうコード = 円町校土
 予約をお願いします = よ役をおね害します
 自家用車 じかようしゃ = 時火曜者
 携帯用 けいたいよう = けい体曜
 最近 さいきん = 才金

こうする事により、文字数も減り打つ回数や時間も少なくなります。ただ漢字の位置を覚えておかななくてははいけません。



トーキングエイドの漢字モード = 五十音のひらがなキーを押すとそれに対応したキーを押すとその漢字が選択される

若松:発光式のスキャン盤を屋外でも見やすい液晶画面にしてほしい。小型軽量化にもつながると思う。今のはとにかく大きいので、車いすで使っていたのを、ベッドに移り使う時が大変です。できれば、携帯ぐらいの大きさになるとよいと思います。



若松泰宏さん = トーキングエイド + オートスキャン + 顎 SW

個々にあった文字配列、スキャンパターンを自分で設定できるようにしてほしいです。早く伝えたいとき、焦れっさを感じるので、場面によって「はい」のキーを先頭にしたり、最後にしたりできるとスムーズな会話ができると思います。

またバッテリーの残量を気にして使わないといけません。長時間使う時は介助者に頼んでこまめに電源を消してもらっています。バッテリーが切れてしまい、本当に使いたいときに会話をできなくなるからです。センサーで電源の ON / OFF の切替ができると助かります。

早く自分の想いを伝えたいので、ケータイの推測候補のように、以前に使った単語を選べるとよいと感じます。「さっきもこれ言っただろ、また、同じ言葉を打つんかよう」という時があるのです。ケータイと合体させて電話でも使えと、もっと世界が広がる気がします。何か用のある時、遠くの人を呼べる機能があれば、なにかと安心で必要不可欠な機能ではないかな。

最後に一つ、こういう機器は作りっぱなしでなく、実際に使っている人と直接意見交換できるようにしてもらいたいです。その方が良いものを作れると思います。



渡辺全孝さん＝トーキングエイド + オートスキャン+類 SW

渡辺:旧型の方が音質がよいので旧型（トーキングエイド、'94 製造中止）を使い続けています。交換部品がないのでバッテリーが壊れたら終わりです。

服部:私は思っている事や考えている事を、すぐにはトーキングエイドを使って伝えることができません。カードを見てトーキングエイドを打つ練習をしています。

要望としては、

- ・単語単位で出てくると良い。
- ・手帳型で音が出ると良い。

既製品だけでは難しい人たちがいます。車いすにオーダーメイドがあるように、ユーザーの個別な状況に合わせて機器を開発してほしい。



服部美香さん＝トーキングエイドライト

吉村:トーキングエイドでパソコン機能の搭載されている物を作って欲しい。

日光によって液晶が焼けないようにしてほしい。また、ソーラーパネルで充電できるようにしてほしいです。

加藤:私が提案したいのは、絵文字やマークで気持ちを表現できる機器の開発です。「嬉しい」とか「めちゃ嬉しい」とかを絵文字や顔文字、マークにするといっぺんに伝わるからです。音量についても、屋外で話すときにはもっと大きい音とか、逆に内緒話ができるようなより小さい音とかが欲しいです。抑揚とか音の高さも、もう少し段階を増やすか聞き取りやすいようにしてほしいです。読み上げ速度を変えられるのですが、速くすると抑揚がおかしくなるのでそれも改善して欲しいです。また、「文字音」設定すると本文だけでなく、余計な機能キーの言葉までも入ってしまうから、設定により付けたり、なくしたりできるといいかなと思います。

音声については、好きなタレントさんの声、たとえば天海祐希さんとか中森明菜さんとか、男性なら大沢たかおさんとか竹野内豊さんとかの声を使えないでしょうか。あるいは、自分の声をサンプリングして使えないでしょうか。どの機器からも同じ声ではおおぜいで話をする、誰が話しているのかも分からないのです。皆さんと同じように自分の声を持ちたいです。

また、メイン画面をカラーにしてもっと分かりやすくして欲しいです。白黒では分かりにくいと思います。

さらに、漢字が使えると感情も豊かに表現できるし、文字数だって少なくてすむから漢字変換機能が付くと助かります。さらに、コピーと移動の機能がついたら、打つ手間が減ってありがたいです。



加藤三千代さん = ボイスキャリア・ペチャラ

他にも携帯電話の入力みたいに、「あ」と初めの1字を打てば（「ありがとう」、とか）そのあとの言葉が出てくるようなもの。トーキングエイドの中にはその機能がついているものもあることはあるのですが、もう少し機器の重さも価格も考慮して欲しいと言うことです。

文章の保存も問題です。今ある機器は短い文章しか保存できません。3000文字ぐらいの文章も保存できるようにして欲しいです。私たちの生活の中でちょっとしたおしゃべりだけではなく、まとまった話をするという場面もあるのです。



吉村耕二さん = トーキングエイド（タムラ製）

携帯電話でメールを書いて送信するときファイル名を作らなくても一時保存ができますよね。そうした機能も欲しいです。

文章はSDカードに保存できますが、保存したファイル名を覚えていないといけないう点と、覚えていても入力に時間がかかるという点での不便さも解消して欲しいです。ボイスレコーダー（録音）機能も欲しいです。今ある録音機能は、挨拶程度の録音しかできません。会議や話し合いのとき、入力しているうちに話が進んでしまつてついていけないことがあり、いったい何が話されたのだろうと思うことが多いからです。

こうした機能は、携帯電話では実現してきています。会話補助装置にはなぜ、今の時代に合った機能を付けることが難しいのでしょうか。携帯電話にできて、携帯用会話補助装置にできないのはおかしいと思います。

ちなみに、私の携帯電話は2万6千円で買いました。携帯用会話補助装置では10万円を超えるものもあります。価格と機能（価値）が見合っていない。

携帯電話では、楽しく遊んでいると知らないうちに操作に慣れて使いこなせるようになります。携帯用会話補助装置にも、楽しんで使い続けられるような遊び心が求められます。

エイダーズとして訴えたいこと

加藤: 私たちは、言語障害だけでなく、手の障害、足の障害もあり、そのために健常者の価値観に合わせられた機器を使わされることに

なっています。

制度や規制がある中で技術者さんも苦労してみえると思いますが、一人ひとりのユーザーに合わせたものを開発するよう心がけていただきたいと思います。

コミュニケーションが図れないと、社会からも孤立してしまうことになるし、身近な人間関係でもトラブルとかになりやすく、相手との関係が悪くなって、孤独になってしまうこともあるからです。不自由なくしゃべれる人と比べて、すぐ伝えることができないから、かなり損をしていると思うのです。障害を持つ身だからこそ、より便利なものが欲しいと思いますし、使う権利もあると思います。

すぐ伝えたい気持ちは誰でもあると思いますが、すぐ伝わらないのが、私たち言語障害者や聴覚障害者です。ですから、話の流れについていけない時があります。

会話補助装置を使った会話では、自分が入力しているうちに相手が離れてしまうという場合があります。理解してくれる人しか話すことができず、社会から孤立してしまうことになります。そうやって世の中に参

加する機会が奪われていると感じます。

野口: 今後も引き続き厚生労働省への働きかけもしながら、コミュニケーションの重要性や言語障害を持つ人たちの現状を把握し、何らかの形で多くの広い方々に問題を提起していきたいと思っています。

加藤: エイダーズをはじめた時からの念願があります。それは携帯用会話補助装置（トーキングエイドなど）が日常生活用具から補装具扱いになることです。

これまでも署名や要望書を厚労省に届けたりしましたが、行政の人は動いてはくれません。なぜ補装具として認められないのでしょうか。

私たちは年金と手当で生活している者が多く、日常生活用具だと修理代とかもかかるし、施設にいる人は使えないからです。

今の言語障害者の置かれてる立場はというと、ちゃんとしゃべる権利がありません。

普通の人じゃしゃべるのにお金がかかるのでしょうか。施設の人には給付されないなんておかしいと思います。差別でないでしょうか。

(後半の文章は第 24 回リハ工学カンファレンス障害当事者セッションにおけるトーキングエイダーズの発表原稿をもとに再構成しました)

よ かった ~ !

1990年4月に自立の家のデイセンターが始まって、3ヶ月目くらいに、ナムコからトーキングエイドを3台寄付してもらいました。

きっかけは忘れましたが、デイセンターのスタート時、文字盤を使って話す人が何人かおり、世の中にトーキングエイドがあるじゃんで、ナムコへお願いしたような記憶があります。

出会いの場としてのデイセンター：「物との出会い」の一環で、話すことを自分からアクションを起こせる機会づくりとして、トーキングエイドの活用をしたと思います。それから11年、2001年にエイダーズの発足。施設で使えないのは「おかしいじゃん」・・・

他の人のことを考えるようになり、アクティブな動きが始まりました。

よかったー！

デイセンター・サマリアハウス施設長 浅井貴代子

携帯用会話補助装置のいろいろ（一例）



トーキングエイド（1994年製造中止）



トーキングエイドライト 125,000円（非課税）



トーキングエイド(タムラ製、2005年製造中止)



ファンコム製
レッツ・チャット 125,000円（非課税）



トーキングエイドIT 168,000円（非課税）



パシフィックサプライ製
ボイスキャリア・ペチャラ 98,800円（非課税）

トーキングエイドの変遷

機種名	機種特徴		販売期間
	ロゴ	本体色（形）	
初代(旧)トーキングエイド	TALKINGAID	白（横長）	1985年12月～1988年2月
トーキングエイド	TALKINGAID α	黒（横長）	1988年3月～1994年4月
トーキングエイド	TALKINGAID αII	茶色（横長）	1994年5月～1999年11月
トーキングエイド(タムラ製)	TALKINGAID	アイボリー（横長）	1999年12月～2005年5月
トーキングエイドIT	talkingaid	グレーまたはオレンジ（横長）	2003年11月～現在
トーキングエイドライト	TALKINGAID LIGHT	白（正方形）	2005年5月～現在